

記 録

全国大学史資料協議会二〇〇六年度総会ならびに全国研究会

小宮山 道夫

一、企画の経緯

全国大学史資料協議会は、大学史編纂および大学資料を所蔵する組織で構成される全国組織であり、広島大学は一九九八年度より、当時の五十年史編纂室を担当窓口に西日本部会の機関会員として加入している。機関会員としては国立大学初の加入であり、このことはその後長崎大学、東北大学、大阪大学、名古屋大学の機関会員としての加入に貢献しているときく。

同協議会は一九九六(平成八)年に発足したことから、二〇〇六年に発足十周年を迎えることになった。発足当時六二大学、個人会員二〇名であった協議会の規模は、二〇〇六年十月現在、東西部会あわせて、機関会員九二校、個人会員三六名となり、現在も全国的な大学アーカイブズの設立にあわせて会員が増加している。同協議会の創設記念総会を広島大学(図書館ライブラリーホール)を会場として行った経緯から、十周年記念となる今年度の全国大会を本学を会場として開催する話が持ち上がり、本学としてもこれを引き受けることとなった。

二、全国大学史資料協議会の沿革

全国大学史資料協議会は、東日本の大学を中心に組織される東日本部会(機関会員五八校、個人会員二二名)と、西日本の大学を中心に組織される西日本部会(機関会員三四校、個人会員一四名)との二つの部会により構成されている組織である。

東日本部会の起源は、一九八六(昭和六一)年に有志により結成された「大学史連絡協議会(仮称)」で、その後「大学史連絡協議会準備会」を経て、一九八八年に「関東地区大学史連絡協議会」となった。一方、西日本部会の起源は、一九八九年に発足した「大学史担当者連絡会準備会」で、翌年「西日本大学史担当者会」と改称した。

この両会が一九九二年より九五年に至るまで年一回の合同研究会を開催して交流を深めており、それを発展させるかたちで一九九六年四月に全国大学史資料協議会が発足することとなった。そして東西の団体はそれぞれ協議会の部会として活動を継続している。同協議会のリーフレット(二〇〇五年四月現在のもの)には「設立趣意」として

次のように記載されている。

私たちは、大学の歴史は個別大学史の枠にとどまるものではなく、他大学や社会との関連を視野にいれて編纂されるべきであり、大学に蓄積された資料は、大学図書館や大学資料館といった常設機関で整理・保存され、広く社会に公開・利用されるべきであると考えます。この協議会は、研究会・講演会等の部会活動を通じてこれらの問題に取り組んでいきます。

大学史編纂や大学資料の保存・公開に関して有効な情報を得たい大学や個人には、第一に加入いただきたい組織である。

### 三、大会の概要

全国研究会は平日三日間の日程で開催されるのが通例であったが、(一)当館の閲覧日である月々水曜日をできれば避けたいこと、(二)行事開催による当館の機能停止を二日間に止めたいことなど、会場校の都合を協議会に全面的に受け入れて頂いて開催することとなった。大会の概要は次のとおりである。

名称 全国大学史資料協議会二〇〇六年度総会

ならびに全国研究会

協議会発足一〇周年記念大会

日程 二〇〇六年一〇月二日(木)～一四日(土)

会場 一〇月二日(木) 二〇〇六年度総会・記念講演

会場 広島大学図書館ライブラリーホール

一〇月二三日(金) 全国研究会・現状報告・

パネルディスカッション

会場 広島大学図書館ライブラリーホール

一〇月四日(土) 全国研究会・見学

会場 呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)

主な内容

記念講演 小池聖一(広島大学)

「大学図書館における個人文書の位相」

研究会 テーマ「大学アーカイブズにおける個人文書

～個人文書の整理・公開の現状と課題～」

パネリスト

一、高 阪 薫(甲南大学文学部教授)

「甲南学園創立者 平生鈺三郎日記の教育と研究」

二、玉 置 栄 二(桃山学院史料室)

「柳原吉兵衛・貞次郎関係文書の

受け入れ・整理・公開」

三、堀 田 慎一郎(名古屋大学)

「大学文書資料室における個人文書の収集・

管理・公開とその問題点」

### 四、大会日程

大会日程は初日を全国総会および記念講演、二日目および三日目を

全国研究会として、次のとおり実施された。

◎一日目(二〇月二日(木))

会場：広島大学図書館ライブラリーホール

一三：〇〇 全国大学史資料協議会役員会

一三：三〇 受付開始

一四：〇〇 開会

一四：一〇 二〇〇六年度総会

挨拶 全国大学史資料協議会会長 鈴木 秀幸

(明治大学大学史資料センター)

議長・副議長選出

議事 一、全国大学史資料協議会役員会の報告について



会場校として挨拶をする牟田泰三広島大学長

二、二〇〇六―二〇〇七年度役員交代について

三、二〇〇六年度東・西日本部会事業計画報告

四、その他 新会長あいさつ

熊 博毅(関西大学年史編纂室)

一四：四五 休憩

一五：〇〇 挨拶：牟田 泰三(広島大学長)

一五：一〇 講演：小池 聖一(広島大学図書館長)

一六：三〇 演題「大学図書館における個人文書の位相」

見学(図書館ほかキャンパス内自由散策)

一七：三〇 情報交換会 会場：学生会館レセプションホール

◎二日目(二〇月三日(金))

会場：広島大学図書館ライブラリーホール

全国研究会 テーマ「大学アーカイブズにおける個人文書」

「個人文書の整理・公開の現状と課題」

一〇：〇〇 開場

一〇：一五 二〇〇六年度全国研究会

挨拶：全国大学史資料協議会副会長校

一〇：二〇 全国研究会テーマ発題：

小宮山 道夫(広島大学文書館)

一〇：三〇～一一：三〇

報告① 高阪 薫(甲南大学文学部教授)

「甲南大学創立者 平生夙三郎日記の教育と研究」

一一：三〇 (昼食)

有志見学会・広島大学高等教育研究開発センター

(一一：〇〇 見学終了)

一三：〇〇～一四：〇〇

報告② 玉置 栄 二 (桃山学院史料室)

「柳原吉兵衛・貞次郎関係資料の

受け入れ・整理・公開」

一四：〇〇 (休憩)

一四：一〇～一五：一〇

報告③ 堀 田 慎一郎 (名古屋大学大学文書資料室)

「大学文書資料室における個人寄贈文書の

収集・整理・公開とその問題点」

一五：一〇 (休憩)

一五：三〇～一七：〇〇

パネルディスカッション

司会 小宮山道夫 (広島大学文書館)

石田 順二 (武蔵野美術大学大学史史料室)

一七：〇〇 閉会の辞・全国大学史資料協議会副会長

一八：〇〇 有志夕食会 (自由参加)

◎三日目 (一〇月一四日 (土))

会場：呉市海事歴史科学館 (大和ミュージアム)

〇八：四五 JR山陽本線西条駅前バス出発

〇九：〇〇 広島大学学生会館前バス出発

一〇：〇〇 呉市海事歴史科学館 (大和ミュージアム) 見学

\*常設展

\*大和ミュージアム・バックヤード見学

一二：〇〇 解散 (大和ミュージアム前バス出発)

一二：一五 昼食 (呉森沢ホテル)

一三：三〇 バス出発

一四：三〇 JR新幹線東広島駅着

一四：四五 広島大学着

一五：〇〇 JR山陽本線西条駅着

### 五、研究会

今大会は、「大学アーカイヴズにおける個人文書と個人文書の整理・公開の現状と課題」という統一テーマのもと、三名の報告をもとにパネルディスカッションを行った。今回のテーマの狙いは、第一に参加者全員が共有できる話題とすること。第二に単なる個別大学の事例報告に内容を矮小化しないこと。第三に、個人文書という対象によって派生する大学アーカイヴズにとつての課題について話題提供をいただくことを目標として設定させていただいた。

発題者の準備不足のため、三名の報告者とは事前に内容に関しての打合せを行うことができなかったが、それぞれの報告者より統一テーマの趣旨を十分に汲み取っていたという報告がなされた。



パネルディスカッション会場

公開の実践例について報告された。堀田慎一郎氏からは、文書資料室で扱う法人文書以外の「個人の手によって集積され、個人の手によって保存管理されてきた資料群」の取扱いに関して、受け入れの戦略、整理上の課題、個人情報保護・情報公開関連法規に照らした公開の課題に関する内容が報告された。

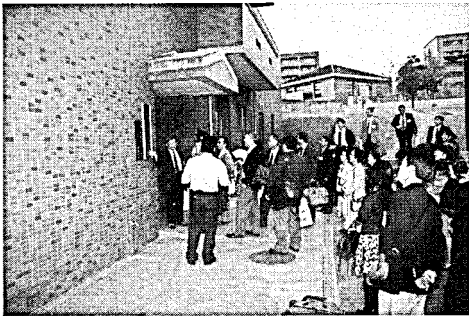
なお、日程初日の記念講演とともに、全国研究会における報告やパネルディスカッションの内容については、二〇〇八年に全国大学史資料協議会が刊行する『研究叢書』第八号に詳細が掲載される予定であるので、そちらを参照願いたい。

高阪薫氏からは創設者関係の個人文書として、平生日記という甲南学園にとつてのみならず近代日本史研究にとつても重要な史料を素材に、その利用・公開作業を進める上での問題点を指摘する内容が報告された。玉置栄二氏からは、学校関係者の個人文書として、柳原家の多様な史料の受け入れから整理・公開に至る過程の報告と、整理にあたっての工夫点、閲覧利用・

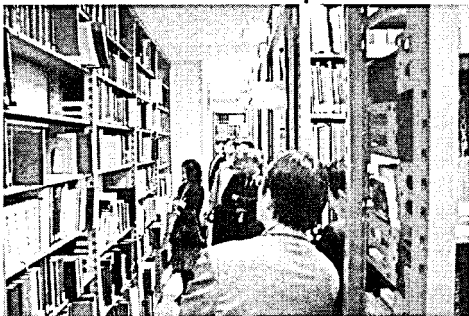
## 六、見学会

今大会においては、一日目の広島大学文書館の見学をはじめ、三施設の見学を日程に盛り込んだ。文書館においては見学者を三班に分けて、公文書室および大学史資料室をはじめ、森戸辰男記念文庫と平和学術文庫の特殊資料群および各書庫を隈無く案内した。廊下部分にはこの日のためにミニ資料展「広島大学の森戸辰男展」を設けた。展示品については文末の展示目録を参照願いたい。

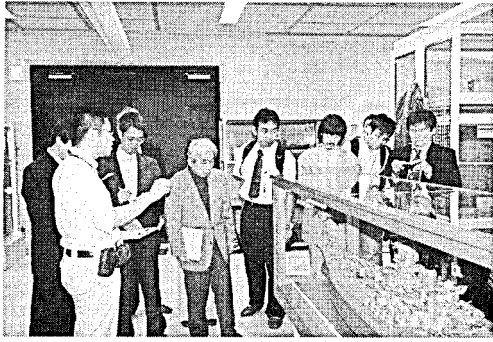
二日目の昼休憩時間には、広島大学高等教育研究開発センターの有志見学会を実施した。同センターは協議会創設大会時の見学会会場であり、協議会創設当初からの会員にとつては十年ぶりの見学会であった。



広島大学文書館見学会 (12日)



高等教育研究開発センター見学会 (13日)



呉市海事歴史科学館見学会 (14日)

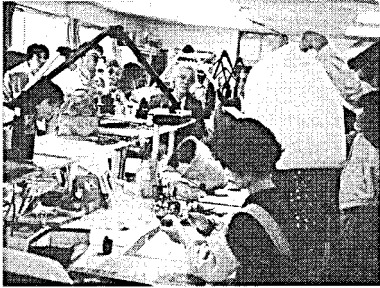
大学教育研究センターの名称で親しまれていた同センターは、大学紛争を契機として一九七二年に日本で最初に設置された大学・高等教育を研究するための専門機関である。同センターの情報調査室には、設立以来収集にとめられてきた、「大学・高等教育」に関する図書約三万冊、雑誌約一五〇種、内外大学・官公庁・諸機関の報告書類約二万二千冊、国内外大学便覧・シラバス類約二万六千冊等のコレクションが収蔵されており、十年前と同様に見学者の目を楽しませていたようであった。見学にあたっては情報調査室事務補佐員の脇本美樹氏と関内奈穂子氏に案内して頂いた。

三日目の日程は呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)の見学会である。同館は二〇〇五年四月にオープンし、四〇万人と予測されていた年間来館者数をはるかに上回る一七〇万人の来館者を数えた話題の施設である。見学会では、同館の展示室のみならず、収蔵品を保管しているバックヤードの見学をさせていただくことができた。見学にあたっては海事歴史科学館の戸高一成館長よりご挨拶をいただくとともに、同館の道本幸雄主査より館内の概要説明をいただいた。収蔵庫・バックヤード見学は学芸

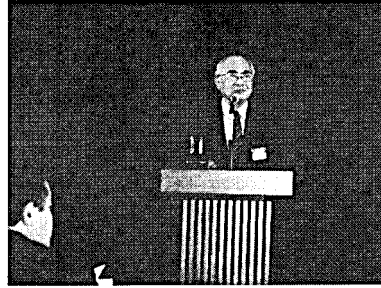
員の齋藤義明氏および松下佐知子氏による案内で、同館の保存体制や業務運営上の工夫や課題等について学ばせてもらうことができた。今回快く見学を引き受けてくださった呉市海事歴史科学館および広島大学高等教育研究開発センターの皆さんに心よりお礼申し上げます。

## 七、協議会創立一〇周年記念ミニ写真展

一〇周年記念企画として、メイン会場となった図書館ライブラリーホール内後部に、協議会の一〇年間のあゆみをあらわす写真を用いたミニ写真展「全国大学史資料協議会のあゆみ」を開設した。展示した写真とキャプションは次のとおり。



③見学 九州歴史資料館で土器の修復作業を見る 1994.10.7



①あいさつ 河野仁昭氏 (同志社社史資料室) 1994.10.5



④記念写真 参加者一同 1994.10.5

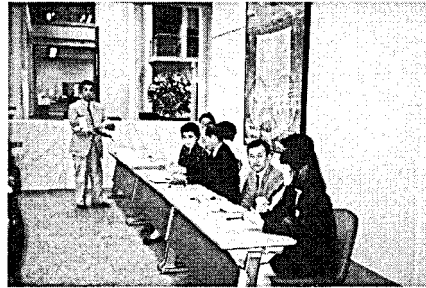


②報告 後藤正明氏「福岡大学の大学史」1994.10.6

1、東日本大学史連絡協議会・西日本大学史担当者会 一九九四年度  
東西合同研究部会  
(会場：西南学院大学・福岡市博物館・九州会館  
福岡ガーデンパレスほか) 一九九四・二〇・五〜一〇・七



⑦司会者 設立総会時も司会者、松崎 彰氏・熊博毅氏 1996.10.8



⑤受付 吉岡義信氏 (龍谷大学) の顔がある 1996.10.7



⑧報告 中野実氏「東京大学百年史編纂後の資料室」 1996.10.8

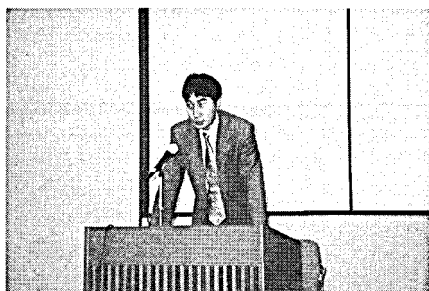


⑥見学 広島大学大学教育センター 1996.10.7

2、全国大学史資料協議会設立総会・全国研究部会  
(会場：広島大学・広島女学院) 一九九六・一〇・七〜一〇・九



⑪見学 広島女学院で歴史資料館の説明を受ける 1996.10.9



⑨報告 日露野好章氏「東海大学における学内類似機関と資料室」 1996.10.8



⑫見学 広島女学院  
歴史資料書庫の見学  
1996.10.9



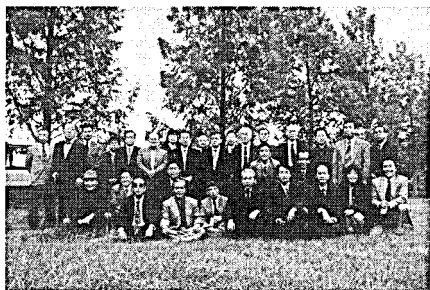
⑩有志夕食会 竹市知弘氏、沢木武美氏、鈴木秀幸氏、若山晴子さん、熊博毅氏、寺西(佐伯)裕加恵さんほか 1996.10.8



⑮記念講演 ケニス・スミス氏と司会の西口忠氏 1997.10.13



⑬記念講演 ケニス・スミス氏「シドニー大学アーカイブズ—過去、現在そして将来—」 1997.10.13



⑯記念写真 参加者一同1997.10.14



⑭見学 東北大学記念資料室  
1997.10.13

3、全国大学史資料協議会 一九九七年度総会・全国研究会  
(会場：東北大学・東北学院大学) 一九九七・一〇・二三—一〇・二五



## 八、おわりに

今年度の大会は広島大学という、あまり交通の便がよいとは言えない場所を会場としたにもかかわらず、一〇周年記念あるいは協議会発祥の地への回帰といった事情も手伝って、四四大学六四名（東日本部会所属の二八大学三六名、個人会員三名、合計三九名、西日本部会所属の一六大学二三名、個人会員二名、合計二五名）の参加者を得て、首都圏以外での開催大会としてはたいへんな盛況のうちに閉幕することができた。大会運営にあたっては万全を期したつもりではあったが、やはり大会運営経験やスタッフ数の不足から、参加者には何かと不便をおかけすることとなった。改めてお詫び申し上げる。

前述のとおり、記念講演および研究会の内容を含め、今大会の詳細



⑰ケニス・スミス氏夫妻、寺崎弘康氏、村松良人氏、中川壽之氏



全国研究会参加者集合写真（13日）

係者にはここに記して感謝したい。

（こみやま みちお・広島大学文書館）

については二〇〇八年に全国大  
学史資料協議会が刊行する「研  
究叢書」第八号に掲載を予定し  
ているので、興味のある方には  
是非そちらをご参照願いたい。

最後になったが、今大会の開  
催にあたりご後援頂いた東広島  
市教育委員会、呉市海事歴史科  
学館、中国新聞社には心よりお  
礼申し上げたい。また、大会の  
メイン会場として利用した広島  
大学図書館および学士会館の関

## ようこそ広島大学文書館へ

広島大学文書館は広島大学のアーカイブズ(archives)です。

アーカイブズとは、「人又は組織がその活動の過程で作成、受領、収集した記録のうち、継続的価値を持つものとして保存されているもの。また、それらの記録を管理、保存し利用に供する公文書館等の機関や施設。」を意味します。ですから広島大学文書館は、広島大学がその活動の過程で作成、受領、収集した記録のうち、継続的価値を持つものとして保存されているものを管理、保存し利用に供する機関ということになります。

皆さんの身近な例で言えば、広島県には広島県立文書館が、広島市には広島市公文書館があり、それぞれ前者は県の、後者は市の、一定の時間が経ったために使用されなくなった行政文書を引き継いで保存・公開をしています。また関連する歴史的資料も収集・保管しています。このため県や市の歴史について調べようとしたときに、真っ先に役に立つ機関と言えるでしょう。

このような役割を果たすのが広島大学文書館なのです。

また、大学にアーカイブズを設けている大学は日本では数少ないものです。旧国立大学では、東北大学、東京大学、名古屋大学、金沢大学、京都大学、九州大学などで、私立大学でも著名な創設者をもつ、ごく限られた大学のみです。また文書館という名称をもっているのは京都大学大学文書館と広島大学文書館のただ二つです。

広島大学文書館には、今回展示で使用した森戸辰男に関する資料(写真や文書、書簡など)をはじめ、広島大学に関係する人物の記録を収集・保存しています。そして当然の事ながら、広島大学の過去の公的記録を多数保存しています。この記録を一般の閲覧に供するよう整備するとともに、授業を開講したり資料を使って研究を行っています。

「The heritage of the past is the seed that brings forth the harvest of the future.(過去の遺産は、将来の実りをもたらす種子である)」とは、米国のワシントン DC にある国立公文書記録管理局の玄関台座に刻まれている言葉です。広島大学の史資料を適切に保存することにより、広島大学をはじめ、地域や国に、そして何よりも国民に対して実りをもたらす種子を後世に伝える機関、それが広島大学文書館なのです。

### 広島大学文書館利用案内

開館日	月曜日・火曜日・水曜日 ただし祝日、12月28日 ～翌年1月4日を除く	連絡先 〒739-8524 広島県東広島市鏡山1-1-1
開館時間	9:30～16:30	電話 082-424-6050 FAX 082-424-6049
利用申込時間	9:30～11:45 13:00～16:00	e-mail : bunsyokan@office.hiroshima-u.ac.jp

## ケース2

### ○教養部訓示

昭和25年6月22日に教養部で行われた森戸による訓示のメモ。このなかで、森戸は、人間性の内面につながる全人的な人間性の育成を究極の目標とし、それは学園協同体の全生活のなかにおいて教育と研究とを基点としながら達成されていくものであることを述べている。

また、本訓示は、小冊子として学生に頒布されている。

### ○広島大学学章制定関係書類

学章(バッジ)は、懸賞募集の結果、昭和31年1月20日に決定され、現在に引き継がれている。

なお、森戸文書には、本資料のような広島大学の公文書(写)も多数残っており、現在進行中の広島大学50年史編纂の重要な資料の一つでもある。

### ○一般教育の管理・運営の組織について

昭和35年6月12日付で国立大学協会に提出された原稿。一般教育の重要性と教養部の制度的改善を提言したもの。

その後、森戸は、広島大学を辞して東京に戻り、中央教育審議会、日本育英会、労働科学研究所等を活動の拠点としていきます。特に、中央教育審議会には、昭和28年9月より昭和46年7月までの9期約18年間、委員および会長を務めたのでした。委員としては、特別委員会の主査として私立学校教育の振興等の審議を行い、「期待される人間像」をまとめます。また、第三の教育改革とされた答申「今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」を昭和46年6月に出しています。

(1)新渡戸稲造を囲んで[写真パネル]

第一高等学校に進学した森戸は、校長であった新渡戸稲造と出会い、強い影響を受けた。写真は、明治42年5月、校友会の委員交代時のもの。

(2)パネル:神戸労働学校学生募集ポスター

労働学校講師として森戸は、自ら希望して無給で通した。

## 2. 広島大学の森戸辰男

森戸は、戦後、社会党代議士となり、片山・芦田両内閣で文部大臣を歴任します。その後、社会党再建をめぐる森戸・稲村論争を経て、森戸は、請われて故郷の広島大学に赴任したのです。しかし、当時、広島大学を取り巻く環境は、困難を極めていました。そこで森戸は、昭和26年11月5日、中国・四国地方の中心大学、地域性のある大学、国際性のある大学の三つの構想を明らかにします。この構想に対応して、広島大学では、統合を目標とした整備が行われていきました。さらに、森戸は、自由で平和な一つの大学として広島大学を想定し、復興のために各国の大学等に図書館充実のための図書と苗木の寄贈を求めます。寄贈された旧東千田町キャンパス内のメタセコイア通りは、森戸道路と呼ばれています。

森戸にとって広島大学は、教育の実践の場でした。森戸は、教養部での講演を好み、青少年育成の場として大学の意義を認めていました。反面、全学連を中心とする学生運動に対しては、近代市民型民主主義に反対するものとして批判しています。

森戸辰男は、昭和25(1950)年4月19日に新制広島大学の初代学長に就任、2期連続13年間にわたり学長を務めたのです。

(4)植樹をする森戸学長[写真パネル]

森戸の手により、荒廃した広島大学キャンパスに、世界各国からの援助をもとに植樹が行われた。この精神は、有花会の活動を通じて広島市にも広がっていった。写真は、昭和31年3月7日、「フランクリン」の木を植樹しているところ。

### ケース1

○広島県知事電報

戦後、楠瀬常猪広島県知事を中心に国立広島総合大学設立運動が展開された。本電報は、誘致運動の最中、有光次郎文部次官の来広が決まり、文部大臣であった森戸に感謝を込めて送られたもの。その後、広島大学は、総合大学として昭和24年5月31日に設置されている。

○広島大学学長就任の辞

昭和25年4月24日の就任挨拶で使用されたメモ。「一つの世界」「一つの祖国」のなかで、広島大学を「一つの大学」とすることが提唱されている。

○広島大学評議会資料

本資料は、森戸学長が手元資料として整理していたもの(写)。「広島大学緊急整備のための経費追加について」と題する文書は、新制広島大学創設当時の窮状を窺い知ることができる。

大学史資料協議会特別企画

## 広島大学の森戸辰男 展

### 展示目録

開催期間 2006 (平成18) 年10月12日 (木) ~10月13日 (金)  
会 場 広島大学文書館 1階廊下

### 趣 旨

広島大学初代学長森戸辰男先生 (以下、敬称略) は、戦前森戸事件の被告として学問の自由を守ろうとし、大原社会問題研究所を通じて労働者教育・社会運動に寄与した人物です。

戦後は、社会党の代議士となり、片山・芦田両内閣で文部大臣となり、戦後の教育改革に主導的な役割を果たしました。そして、政界を去り、教育を志して新制広島大学の初代学長に就任したのでした。

初代森戸学長のもと、建学の理念として森戸三原則が定められ、広島大学の原型が形成され、今日に至っています。

森戸は、広島大学を去った後も、中央教育審議会会長として「第三の教育改革」を推進するなど戦後文教政策の中心に位置しつづけたのでした。

そこで本展示では、広島大学文書館が所蔵している膨大な森戸辰男旧蔵資料のなかから、森戸辰男の経歴を紹介しながら、特に広島大学長期に焦点をあて、森戸の思想と行動、当時の広島、広島大学について展示を行います。

本展示の森戸辰男初代学長を通じて、広島大学についてお考えいただく契機ともなれば幸いに存じます。

広島大学文書館  
館長 小池 聖一

### 展示品一覧

(1)森戸辰男年譜

(2)森戸辰男〔写真パネル〕

#### 1. 教育者森戸辰男の源流

教育者としての森戸辰男の源流は、旧制第一高等学校時代に校長新渡戸稲造と出会い、その人格教育に共鳴し、また、大阪労働学校・神戸労働学校で労働者教育を実践したことにあった。